

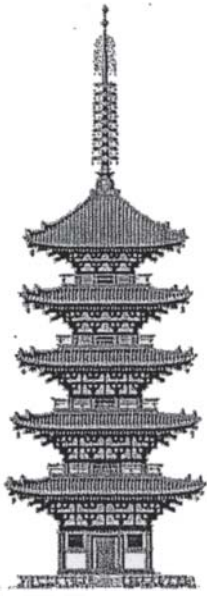
弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちわ。日に日に寒さが増す今日この頃。くれぐれもご自愛ください。弘法大師の生涯をお伝えしている今年のかかわら版。今月は空海の教えです。

★**医王の目には皆薬なり**

空海が厳しい修行の末に到達した境地を簡単に理解できるわけではありません。しかし、空海が遺した言葉から、その趣を少しは感じることができるともいえます。

たとえば、宗派を超えて親しまれている**般若心経**を空海が解説した著作、**弘仁九年(八一八年)**の**般若心経秘鍵(ひげん)**では次のように述べています。

医王の目には途に触れて皆薬なり
解室の人は鉞石を宝と見る
知ると知らざると何誰か罪過ぞ

優れた医者は道ばたの草も薬として活用できる。寶石の専門家、原石から宝石を見つける。物事を理解できるかどうかは本人次第である。このような意味だと思えます。迷うも自分、悟るも自分。自分のことを見つめ直すのが仏法の教えということでしょう。

★物の興廃は必ず人に由る

日本で初めての庶民の学校として空海が開創した**綜芸種智院**。空海は自らが理想とする学校の学則を書き記しました。それが**天長五年(八二八年)**の**綜芸種智院式並に序(しゅげいしゅちいんのしきなうびにじょ)**。教育方針を述べた冒頭部分は次のようになっています。

物の興廃は必ず人に由る
人の昇沈は定めて道に在り

物事が盛んになるか廃れるかは、それに関わる人次第。人が何かに成功するか失敗するかは、それを行う方法次第。人の生き方を追求した空海らしい一文に

感銘を受けます。

★遠からざるは我が心なり

天長四年(八二七年)、**淳和天皇**の異母兄である**伊予親王**逝去に際して、供養のために次のような願文を撰述。

遠くして遠からざるは
即ち我が心なり

絶えて絶えざるは
是れ我が性なり

遠いと思っても、意外に近いのが自分の心。縁を絶ったと思っても、なかなか離れないのが自分の本性。何かにつけて、この原因は自分自身の心や本性によるもの。そのようなことを教えてくださっているようです。

★我が願いも尽きん

天長九年(八三二年)、晩年になって、空海は初めて高野山で法要を行いました。人々の安寧を願う**万燈会(まんどうえ)**です。その折の願文で次のように述べました。

虚空尽き衆生尽き
涅槃尽きなば
我が願いも尽きん



万燈会(まんどうえ)風景

★自らの内面と向き合うこと

宇宙、人々、悟り。これらが全てなくなってしまう、私の願いもなくなる。しかし、これらは無限、無尽に存在するので、私の願いも永遠に尽きない。空海は、人々が自らの仏性に気づき、それぞれが安寧の境地に達することを願っています。そのことが社会全体の平穏にもつながることから、空海は永遠に人々を導き続けます。

空海の遺した言葉から、自らの内面と向き合うことが仏法の教えということ学ばせて頂きました。

弘法大師の生涯をお伝えしている今年のかかわら版。来月は締めくくりとして、**仏教の歴史**における空海の位置づけを確認しておきたいと思えます。乞う、ご期待。

